

山下循環器科内科ニュース第 164 号

2016 年 7 月 1 日発行（隔月発行）

ホームページ <http://yamashita.chobi.net/>

◎薬の副作用について

最近、某週刊誌がシリーズで薬の副作用を取り上げ、続けて飲んででは却って害をするから、飲み続けてはいけないというキャンペーンを行っています。特に薬価の高い薬がやり玉に上がっているようです。読んだ方も多いと思われます。

一つ一つの文章はそれ自体、嘘ではない部分もあります。高脂血症薬のクレステロールを例にとってみましょう。第 1 報では、ある医師が高脂血症のある人に対して、心筋梗塞予防のためには飲む必要がなく、費用対効果が悪く、薬を飲んでも高脂血症のリスクはかわらないと言っています。しかし、これはコマーシャルによく出てくる「個人の感想です。」というレベルでしかありません。なぜそうなるのかのデータを全く示していないからです。大勢の人に使ったデータで論じない限り、説得力はありません。また、副作用についても、別の医師が、筋肉が溶ける（横紋筋融解症）の警鐘を鳴らしています。記事の見出しでは薬で筋肉が溶けてしまうとでており、これを見るとこの薬を飲むと必ず筋肉が溶けてしまうのではないかという気になります。たしかに副作用の一つとして、横紋筋融解症はごくまれに起こると薬の能書に書かれています。実際、使用して筋肉痛が起きるかたも結構おられます。また、筋肉の酵素である CPK が使用后上がってくる場合もあります。筋肉痛が起こった場合は、私の場合は薬を中止するか、他の薬に変更しています。筋肉が溶けたという方はクレステロールを含め、他の高脂血症薬を使った方でも一人も出ていません。注意して使っているからです。

また、女性の高脂血症については、薬を使うべきではないと第 2 報に書かれています。動脈硬化学会のガイドラインでも、女性は心筋梗塞などの心血管病をきたすリスクが少ないと書かれています。私が処方する場合は、閉経後の女性で悪玉コレステロールが 160mg/dl 以上あり、高血圧や糖尿病などの生活習慣病のある人、ない人でも頸動脈エコーで動脈が厚くなっている人やプラークと言ってコレステロールが沈着している人などに処方しています。

また、病院が儲けるため高い薬を使いたがるとも書かれています。現在は、ほとんどの医療機関で調剤薬局に処方箋を出していますので、全く見当違いといえます。薬価の高い新しい薬を出しても医療機関が儲かるわけではありません。

記事の中にはよく読むとなるほどという部分もありますが、一般の方が読むと、副作用が気になって仕方がなくなるという気分になるでしょう。薬の効果のことはほとんど書かれていません。これは片手落ちというべきでしょう。

薬の副作用を針小棒大に取り上げ、国民の不安を増幅しようとするのはいかにも週刊誌的な発想と言えます。あるいは薬価の高い薬ばかり攻撃されている点からみると、医療費を減らしたいと考えている人たちからの情報提供とも思われます。記事を読んで心配になり、自己判断で薬を中止して病気が悪化したときは誰が責任をとるのでしょうか？心配になった方は、まずかかりつけの医師に相談して、今後はどうしたいか決められたら良いと思います。(院長)

◎結核について

最近、テレビCMでもよく流れている結核について書きたいと思います。結核は今でも年間2万人以上が発症し年間で2000人以上の人が命を落としています。結核は結核菌を吸い込む事で起こる感染症です。肺結核が主ですが、腎臓、リンパ節、骨、脳などが冒される事もあります。吸い込んでも多くの場合、体の抵抗力により追い出されます。菌が体内に残り活動していない状態を「感染」と言います。感染者の60%が1年以内に発病していますが数年～数十年後に発病する事もあります。抵抗力のない人(お年寄り、過労、栄養不足、他の病気による体力低下等)は注意が必要です。

初期症状はカゼと似ていますが、せきや痰、微熱が続き、ひどくなると倦怠感、食欲不振、寝汗、血痰、喀血もみられます。

検査は胸部レントゲン撮影を行い疑わしい影がある場合はCTスキャンなどを行います。喀痰検査では、結核菌を排菌しているかを調べる塗抹検査、培養検査、遺伝子検査などがあります。最近では、インターフェロングamma遊離試験と言う血液検査により結核の感染を調べる事ができます。BCGワクチンの接種者でも感染の有無を診断でき、活動性または潜在性の結核かどうかもわかります。

治療は4種類の薬を組み合わせ2か月間内服し、その後2種類の薬を4か月間内服し全治療期間は6か月です。治療途中での飲み忘れや自己中断によって耐性菌(薬の効かない結核菌)ができる事もあるので確実な内服が必要です。

普段より規則正しい生活を心がけ、栄養バランスの良い食事と十分な睡眠、適度な運動等が大切になります。たばこは肺にはもちろん、のど、気管など多くの部位へ悪影響を与えますので控えましょう。また定期健診をきちんと受ける事も必要です。せきをする時は口元をティッシュやハンカチで押さえたりマスクをする(咳エチケット)も重要となるでしょう。2週間以上、せきや痰、微熱が続くようなら早めの受診をおすすめします。(看護師 萱嶋 真弓)

◎新入職員自己紹介

5月11日より入職しました外来看護師の佐藤貴子です。初めて行う業務もあり、覚えることもたくさんありましたが、1か月が経ち、少しずつ慣れてきました。患者さまが安心して診療を受けられるように、常に患者さまの目線にたち、笑顔を絶やさずに外来診療の援助をしていきたいと思っています。よろしくお

願います。